

# 令和5年度（一財）日本建設情報総合センター 研究助成決定

令和5年度の研究助成については、8月2日に学識経験者を含めた審査委員会において厳正な審査を行い、応募があった11件のうち9件に対して研究助成を実施することを決定しました。

今年度も7つの対象課題を設定し、助成の対象となる研究を募集しました。特に応募が多かったのは、「ICT等に関する技術（AI、5G/IoT、XR(VR、AR、MR、SR)、センシング技術、画像処理技術等）の建設分野における活用に関する調査研究」と「3次元モデルや3次元データの活用による建設生産性向上、維持管理の効率化・高度化に関する研究」でした。

また、若手の研究者による今後の研究の発展・充実を期待して、平成29年度から若手研究者枠（35歳以下）を設けており、今年度も2件を採択しております。

採択された研究については、JACICが主催する成果報告会だけでなく、国内外を問わず広く学会等において成果を発信し、あわせて学術論文として投稿することで、建設情報システムの発展に大いに寄与することを期待します。

## 【審査委員会の委員】

大橋 正和（中央大学名誉教授）

島崎 敏一（日本大学名誉教授）

月尾 嘉男（東京大学名誉教授）

山田 邦博（理事長）

伊藤 英隆（理事）

野田 勝（理事）

三橋 さゆり（審議役）

研究助成対象者（敬称略）	枠	研究テーマ
静岡理工科大学理工学部 土木工学科 教授 中澤 博志	2年	城郭石垣の維持や施工管理における新たな計測機器の開発
立命館大学理工学部 准教授 福山 智子	1年	建設用3Dプリンタ造形物における異方性を考慮した最適化設計ワークフローの構築と検証
山口大学大学院創成科学研究科環境共生系専攻 准教授 渡邊 学歩	1年	地域企業の建設DX推進人材育成のためのリスク教育実践に関する調査・研究
東京電機大学理工学部 建築・都市環境学系 教授 中井 正則	1年	河道内流木群の流下過程を予測する機械学習モデルの構築と治水計画への活用
高知大学自然科学系理工学部 講師 坂本 淳	1年	先進的ICT技術を援用した災害復旧プロセスの検討
高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科 准教授 池田 雄一	1年	免震建物に設置されているけがき式変位計による地震観測の経時特性を補完計測する加速度センサーマイコンボード（IoT装置）の開発とその実装
産業技術短期大学情報処理工学科 講師 櫻井 健一	1年	ボーリングデータを用いた3次元可視化および地層対比システムの構築
愛知学院大学総合政策学部 専任講師 二神 拓也	1年	深層学習を用いた建造物領域抽出の改良
名古屋大学大学院工学研究科 助教 周 月霞	1年	航空レーザ測量データ(ALB)を活用した河道内樹木の解析